

地域づくり考房『ゆめ』は、大学で学んだ知識や技術を学生が地域づくりの中で実践的に生かしていくことを目指しています。

“ゆめ”の由来…結芽「ニースの芽を結ぶ場所」+ 夢 + 遊眼「遊び心の視点を持つ眼」



松本大学

待機中のボランティアの方々



マップづくりのための調査



活動打ち合わせ



調査をもとに仮説住宅  
周辺情報マップを作成



## 地域の幸せづくりの原点「松本大学災害支援ネットワーク」

松本大学副学長 小倉宗彦

去る7月16日(月)に発生した中越沖地震は本学学生の中にも被災した家庭が出るなど、災害を身近に感じる大きな出来事でした。「この地震の被災地に支援を！」と本学学生と教職員有志が集まり対応策を考える中で、災害はいつどこで起きとも限らず、松本大学として常にそれらに対応する組織を立ち上げていこうと「松本大学災害支援ネットワーク」の構想が浮上し、設立することとなりました。このネットワークは学生と教職員が立場を超えて、松本大学として災害のあった人々や地域にどう貢献するかを考え行動する組織で、本学ならではの学風から発したものとと言えます。

7月26日(木)にはこの活動に共感する学生や教職員が出席して発会式が行われ、順次ボランティア派遣や募金活動を進めることが決意されました。

「地域社会の幸せづくり」を標榜する松本大学の学生や教職員が困っている人に手を差し伸べ、苦しみを共感し、ともに解決への行動を起こす、これはまさに幸せづくりの原点の活動と言えます。これらの活動が学生のみなさんや大学そのものを大きく育ててくれることを願います。

## Topics

新潟県中越沖地震被災地支援活動

ゆめカフェオープン！  
・新入生の活動紹介

平成19年度地域づくり学生  
チャレンジ奨励制度

学生の地域連携活動

・ネイチャリングフェスタ  
・縄手カエル祭り  
・みすずやクレープ屋さん 他

まちの縁側づくり実践塾

・実践報告会および今後の展望  
・ファシリテーション入門講座

「むかしからのうまいもん」完成

つばやき

# 新潟県中越沖地震 被災地支援活動

災害支援ネットワークの組織の中で、被災地と大学（学生・教職員）のニーズをつなぐコーディネート機能として、地域づくり考房『ゆめ』が位置づけられています。

災害支援ネットワークでは、7月16日（月）に襲った新潟県中越沖地震の災害支援活動を行うために、「災害ボランティアグループ」の呼び掛けで学生や教職員あわせて現在47人の応募があります。

8月7日（火）・8日（水）には教員3名・学生2名が先発隊として柏崎に赴き、継続的な被災地支援活動を行うための現状把握や活動受け入れ先・担当者との調整（打ち合わせ）等のニーズ調査を行い、今後のスムーズな活動展開への方向性を探りました。それをもとに、9日（木）には学内にて現地の報告会及び、災害救援ボランティア活動への事前研修を行いました。

8月20日（月）から1ヶ月間、教員・学生2～4人で班を構成しローテーションを組み、柏崎市ボランティアセンターを拠点に、被災地支援活動を開始しました。活動は、「仮設住宅周辺情報マップ調査隊」として柏崎市市内29ヶ所の仮設住宅生活者への生活支援マップづくりと配布、9月からは仮設住宅周辺集会所でのサポート活動を生活支援員とともに進めています。その他、現地の状況に合わせた支援活動を行っています。また、長野大学と連携して継続的に支援活動を行っています。学内調整や現地・長野大学との連携等、先発隊の3教員がコーディネートしています。出発前に活動者には日々変化している現地状況等オリエンテーションし、スムーズな活動につながっていて、現地からも喜ばれています。

この他、学友会等が主体となって、学内での募金活動も進めています。今後さらに多くの方に協力していただけるよう、地域の方々にも呼びかけを行い被災地へ送る予定です。

（コーディネーター 福島 明美）



作成している仮設住宅周辺情報マップの一部。完成したものを仮設住宅の方々へ配布します。



8/23の活動日誌。毎日、活動者が書き込み、引き継ぎをスムーズにします。



時間	活動内容
9:00	ボランティアセンター集合
10:00	生活支援マップ作りの説明 グループにわかれて仮設住宅周辺を現地調査
12:00	ボランティアセンター着
13:00	マップ作り開始 中村のみ別作業 (柏崎わくわく夏まつり看板描き)
16:00	作業終了 反省会(災害ボラセン関係者) 宿泊先にて松本大生と長野大生との合同反省会

## 活動の考察

(感じたこと・考えたこと・反省・次回への課題など)

地図作り用の現地視察で曽根地区(刈羽村)との境に行きました。それまでいた柏崎市街とは違い、かなり被害のひどい地区で驚きました。壊れた家やひびの入った道路、粉々に割れた石像などを見るたび、人間の生活なんて儂いものなんだなあ、なんて思いながら歩いていました。

途中、震災地の方々にお話を伺う機会に恵まれたのですが、体験した方でしかわからないお話を聞けたので、とても貴重な体験になりました。

「目でみなきゃ、わからないこともある」と思って参加したボランティアでしたが、想像していたこと以上のことを見ることが出来て、とても充実しています。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科1年 中村 茉莉さん)

# ゆめカフェ

## OPEN!



地域づくり考房『ゆめ』が行っている活動を多くの学生に知ってもらい、身近に感じ気軽に訪れて欲しいとの願いから、4月6日、16日、25日、5月11日の4日間、学生スタッフ企画による「ゆめカフェ」を開催しました。先輩学生と新入生が交流し、活動を始めるきっかけとなりました。



松本大学に入学した当初、何か活動をやりたと思っていました。先生に相談をし、考房『ゆめ』のことがわかりました。将来、消防士を目指しているため、活動の一つ災害ボランティアの活動をやろうと決心したのがきっかけです。

災害ボランティアでは、災害で被災された人たちに「義援金」を送る活動を行っています。今回、中越沖地震で被災されてしまった人たちに対して、学生や先生たちと連携しながら支援活動を行っています。また、新村地区が自主防災モデル地区に指定されたこともあり、地域の人たちと一緒に災害について学び、防災に対して取り組み始めています。この活動を行っていくなかで、地域の目線で防災について地域の方々と一緒に考えていきたいと思っています。

当初のころは、どんなことをすれば良いのか、戸惑いを感じていましたが、仲間と一緒に考えながら活動をしていくうちに、段々と自分たちが行う活動が明白になってきて、今では戸惑を感じることなく、災害ボランティアの活動に専念できます。

(総合経営学部総合経営学科1年 菊池 浩平さん)



高校生活最後の文化祭で、クラブ活動の一つのボランティア部が企画した地域の方とのふれあいの場に参加しました。その時、部員がとても生き生きと活動をしていたのがいいなと思います。大学に入学した後に何かボランティア活動のような事をやってみたいと考えていました。考房の存在を知り、まずはできることから始めてみようと思いました。

今は、主に大学の近くにある老人保健施設でおじいさんと将棋を指しています。相手の方はなかなか強いのですが、勉強とは違った頭の使い方をすることでとても良い気分転換にもなっています。また、新村駅(上高地線)周辺を活性化させる為の活動もしています。まだ発足して間もないのですが、これからもっと活動の幅を広げていこうと地域の皆さんと盛り上げていく予定です。

自分がやっている活動が誰かの為に役立ってくれていたら幸せだと思っています。今後は、もっといろいろな活動に参加していきたいです。今はまだ受身でいるので、もっと積極的に自分からいろいろと取り組んでいけたらいいなと思います。

(総合経営学部総合経営学科1年 矢澤忠明さん)

オリエンテーションで考房についての説明を聞き、「松風連」の紹介のチラシを見て、興味を持ったのがきっかけです。先輩から詳しい活動内容を聞いて、新しいことにも挑戦していきたいと思ったし、地域の方々と交流ができることに強い魅力を感じたので参加することに決めました。

松風連では松本大学のメンバーだけではなく、社会人の方々と一緒に和太鼓の練習をしていて、地域の行事や施設からの依頼をうけ演奏をしています。

思っていたよりも和太鼓は体力をつかったり、素早い動作が多く、運動が苦手な私にとっては大変なこともあります。練習を頑張って行き、演奏をたくさんの人に聴いてもらう事がとても楽しみになってきています。先輩方はすごく面倒見も良く、頼りがいがある礼儀正しいので見習いたいです。太鼓をうまくたたけるようになりたいし、活動を通して地域の方々と触れ合い、学校の講義だけではわからないことも学んでいけたらいいな、と思います。

(人間健康学部健康栄養学科1年 藤澤 唯さん)



### 参加者インタビュー

活動のきっかけは?  
どんな活動をしていますか?  
活動した感想と今後の豊富



# 地域づくり学生チャレンジ奨励制度

松本大学地域づくり考房『ゆめ』は、本学学生の社会参加への第一歩となり、社会をより良くしていこうとするリーダーシップの芽生えとなる活動を支援しようと、平成17年度から奨励制度事業を行っています。楽しみながら自らも成長し、地域も活性化し、社会貢献につながる、学生による地域づくりの活動を募集し、今年度は6団体の応募がありました。8月3日に選考審査会を実施し、下記の6事業に奨励金が支給されました。各プロジェクトの発足までの経緯、今後の展開などは考房『ゆめ』公式サイトで紹介しています。

[http://www.matsumoto-u.ac.jp/matsumoto\\_u/yume/](http://www.matsumoto-u.ac.jp/matsumoto_u/yume/)

## 平成19年度奨励事業

### 古い電車で 新しい語らいの会

**事業概要**  
松本電鉄新村駅や電車を活かして、地域の方と学生と一緒に地域づくりを行う。多世代交流、新村地区の縁側となる場所づくり、松本電鉄沿線上の地域の活性化などを図る。

### 松本大学キッズ サッカースクール

**事業概要**  
サッカーを通じて、地域の子供たちの健全な発育とサッカーの浸透、普及を目指す。子供たちと触れ合う中で、学生も様々な事を学び、サッカーのコーチング技術の習得、向上を目指す。

### 地域交流和太鼓 プロジェクト「松風連」

**事業概要**  
老若男女、経験者、未経験者を問わず、大学内外誰でも参加できる地域交流型事業。日本の伝統文化である和太鼓を通じて、松本市を中心に地域の様々な活動に参画し、幅広く活動していくことで地域を元気にしていく。

### 災害ボランティア 被災地復興キャンペーン2007

**事業概要**  
学生や地域の人々に災害への意識を持ってもらい、いざという時に動けるように学んだことの情報を発信する。被災地の状況を発表し、物産販売を行い、義援金活動など自分達でできることで被災地支援を行う。

### Peace of mind

**事業概要**  
戦争体験談の聞き取り調査やテーマ別に研究したものを発信し、学生や地域の人達に平和の問題について理解を深めてもらい、平和の大切さや、日常的問題について多くの人に知ってもらう。

### 天ぷら廃油Carエコ旅 プロジェクト2007

**事業概要**  
環境に配慮したSVO仕様車で東日本を旅しながら、各地で観光を楽しみ、自然学校との交流を広める。活動をブログなどで情報発信していく。学生である自分達が楽しみながら、社会へ環境メッセージなどを送る。

## 地域の活性化に 学生がー役

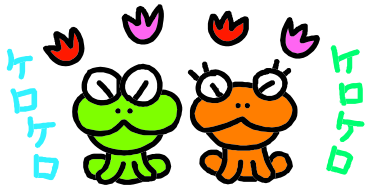
### ネイチャリング フェスタ



私たちは7月14日に花時計公園で行われた信濃毎日新聞社主催のネイチャリングフェスタに参加しました。「人と自然 ふれあいと感動」をテーマにした活動で、私たちは子供たちを対象とした、手作り輪投げを出店しました。なかなか計画通りに出来ず、辞めようかと何度も考えましたが、最後まで責任をもってやりとげたいと思ったので、みんなでしっかり計画を立て直し、準備しました。輪投げの景品はポスターを学内に貼り、多くの学生や教職員の方の協力をいただきました。男の子の好きな景品はどのようなものなのかなど、子どもの立場にたって考えるのがとても難しかったです。当日は、雨で客足は少なかったのですが、交代で客寄せをし、子どもに喜んでもらうことが出来ました。活動を通して、普段触れ合うことの少ない子どもたちとふれあうことが出来、最近の子どもが何に興味をもっているかがわかりました。この活動を通じて、地域の人々とのふれあいのあたたかさを感じました。これからの学校生活に今回学んだことを生かしていきたいです。

(松商短期大学部1年 志村 靖枝さん)

## 縄手 カエル祭り



「年々沈滞傾向にある縄手通りに若者の活力やアイデアを活かして元気を取り戻したい」とのナワテ通り商業協同組合の皆さんからの要請を受けました。

まず、アウトキャンパスで40人の学生が縄手のまち歩きを行い、「縄手通りを元気にするためにできること」を考え合いました。

その後、例年行われているかえる祭りの実行委員会に縄手のまちづくりに関心のある学生4人が参画しました。数回に渡る会議を通して仲間を募り、当日は短大部3人を含めた8人が参加しました。

また、8月11日、12日に行われた夏なつりにも5人の参加者がありました。

私たちは、6月30日・7月1日に松本市の縄手通りで行われた「2007松本縄手カエル祭」に参加しました。このお祭りには毎年信州大学の学生が関わっており、今回は両大学の共同作業という形でした。松本大学生は、スタンプラリー・スマートボール・広報を担当しました。

今年は1ヶ月半という短い期間で企画から準備まで行わなければならない、さらに松本大学の学生は全員カエル祭初参加ということもあって、不慣れな状況の中、当日までの準備をいかにスムーズに進行させるか、ということ念頭に置きながら取り組みました。

また今年から、ナワテ通り商業協同組合が発行して各商店に置いている「カエル券」をスタンプラリーの景品として配布し、射的などのゲームも、これまでは無料だったものをカエル券1枚もしくは50円で1回遊べる、という方式に改めました。カエル券のPRを通じて、商店街の連帯感の向上と活性化を図るという新たな試みです。

カエル券については、当日説明が不足していたせいか「カエル券はどこで使えるんですか?」といった質問があったり、集計したアンケートの中にも「去年までは無料だったのになぜ今年はカエル券がないとゲームができないのか」といった意見がありました。

カエル祭終了後の反省会では、来年のカエル祭の実行委員会は開催日の半年くらい前から始めて、内容についても学生自身が積極的に企画して充実させよう、という提案がありました。今後の展望としては、縄手通りの特性を活かして、学生がアイデアを出して小さなイベントなどを企画し、積み重ねていければと考えています。縄手通りと松本大学の関わりはまだまだ始まったばかりです。

(総合経営学部総合経営学科4年 松村義明さん)

学生作ポスター。  
「可愛い!」と  
大好評でした。

2007 6.30 (土) 7.1 (日)  
松本「縄手カエル祭」  
in 松本市ナワテ通り

今年のサブテーマ  
「カエルの置かれている自然環境をかんがえろ!」

●カエルシンプラリー ●カエルゲーム(賞品景品)

カエル市場 6.30  
カエルファッションショー 7.1

6.30 カエル大喧嘩神事  
パントマイム  
7.1 カエル大喧嘩神事  
パントマイム

www.nawate.net/kaeru/

主催:2007松本「縄手カエル祭」実行委員会・ナワテ通り商業協同組合 後援:松本市  
協力:野生生物資料情報室 信州免後フォーラム



かえるまつり成功ありがとう。

実施決定が例年より数ヶ月遅れ、担当者も変わり、予算も2/3に縮小された今回の「かえるまつり」をどのようにやっていくか、試行錯誤でしたが、松本大学に呼びかけ快く参加していただき、感謝でいっぱいです。どこの商店街も老朽化し、市内ではどんどんマンションばかりが建設され、街はなくなっていきばかりです。縄手通りも同様に沈滞していく傾向にありますが、このように「かえるまつり」をはじめとした各種のイベントを通し、松大生の若いエネルギー、創造性、感性を共有しながら、新しい街づくりを考えていけたらと思います。今後ともよろしくお願いします。

(松本市ナワテ通り商業協同組合 中川 基さん)

## みすずや クレープ屋さん

MENU  
 チョコバナナ200円  
 トロピカル 200円  
 ツナマヨ 250円

80個完売  
 しました！



私たちは、学校近くにあるみすずやで地域の人々と交流しながら憩いの場をつくろうと「クレープ屋さん」を企画しました。私たちが教える側となり、計画を立てました。ゼロからの始まりだったので、沢山の問題にぶつかりました。皆さんと打ち合わせを行い、計画、試作、チラシ・ポスター作り・貼り等行いました。当日困らないように、事前に細かい所まで、気を配り準備をしましたが、実際にやってみると、材料が足りなくなったりとハプニングもありました。しかし、みすずやの皆さんと一緒に協力し、助け合い、見事に完売することができました。

クレープ屋さんをやった事により、地域の人々と交流する事ができました。最初は、年上の人との話し方や話題をどうしたらいいのか、といった事など戸惑ってしまう事もありましたが、最終的には、自然と触れ合う事が出来るようになりました。

この活動を通して地域の人々にも喜ばれ、幅広い年齢の方々とも交流できました。人生経験豊かな地域の方々のアイデアには驚かされました。自分にとってとても有意義な経験ができました。これからも、地域の人々と関わりを持ち、残りの短大生活を送りたいと思います。

(松商短期大学部2年 今井 美香さん)

5月に「地域との交流を目的として何かをしてみたい」とのお話しが学生さんよりありました。クレープ屋さんをやってみようということになり、7月4日に一日だけのクレープ屋さんを開きました。地域の方にも仲間に入っただき、7名で店員をしました。皆で予想していたのですが、お店が始まったら、いろいろな事がありました。その時、その場に応じてお客様には気持ちよく対応することで皆必死でしたが、とても充実したすばらしい時間を持つことができたのではないかと思います。学生さんの若々しい柔軟な考え方と、熟年の豊かな知恵で楽しいクレープ屋さんできました。

これからも学生さんと地域の私たちが一緒になり、楽しい時代のみんなが憩える縁側づくりができたらと思います。

(松本市新村「みすずや」 古屋美佐子さん)

戸外で風を感じながら体をふれあい過ごすことで、子どもの持っている無限の可能性と創造力をひきだすことを目的に、風と遊ぼう“こいのぼり広場”が5月12日(土)大町市文化公園で行われ、短大部の学生5名がスタッフとして参加しました。

その日は晴天でとても気持ちよく、子どもたちやたくさんの親子連れが集まりました。私たちはイベントの準備で絵の具を用意したり、スタッフの方と打ち合わせなどをして開催の時間を待ちました。

イベント中は、こいのぼりのオブジェや白い布製のこいのぼりに絵の具で色を付けたり、紙飛行機や風車で遊びながら子どもたちと楽しくふれ合いました。こいのぼりのオブジェは長さ約2.5メートルのこいのぼり形の木枠に日本海の丸石を敷きつめ、子どもたちが好きな石に自由に色を付け全体の模様を仕上げました。初めは少し戸惑いましたが、時間が経つにつれて自然に体が動いている自分がいました。子どもを楽しませる筈が、逆に私たちが楽しませてもらいました。

今回は、あがたの森で開催される松本市制100周年記念事業イベント「色・彩・水遊び」に企画から参加します。こいのぼり広場の時は事前に打ち合わせができていなかったため、とまどう事がありました。今回は自分たちで企画したゲームを事前にやってみて、反省点などを挙げながら、よりよい物に改善しています。子どもたちが楽しんでゲームに参加してくれると良いな～...と思いながら、チラシ貼りや準備を進めています。

(松商短期大学部2年 小林 真麻さん)

## 風と遊ぼう こいのぼり広場



## 松本神社 神輿渡御



松本神社は松本城ゆかりの神社であり、旧武家屋敷町20町会(1,700戸)の氏神として崇敬されています。7月11日の例大祭は伝統的なお祭り行事として市民に親しまれ、松本市で唯一の担ぎ手による神輿渡御が行われています。今年は神輿を担ぎ続けて55周年、年々神輿の担ぎ手(若者)が減り苦慮していました。私どもは以前から大学の先生方が地域のため、市民のために活躍する姿をよく知っていましたし、大学として地元住民との交流も活発に行われていることにも関心をもっていましたので、関係各位のお口添えもあり、先生方と相談し、本年は松本大学の皆さんによる若い力をお借りすることになりました。若者の活気で無事終了することが出来、心より御礼申し上げます。

神輿の巡回にあたっては400kgある重量に耐え、お互い支え合い練り歩く一体感は参加した者のみを知る男の醍醐味です。また、神輿を接待し諸願成就を祈願する町の人達とのふれ合いは、神輿担ぎの誉れでもあります。来年度の大学生の皆さんの参加を大いに期待しています。

(松本神社氏子総代会 遠藤 傳さん)

7月11日に松本神社で神輿を担ぎました。当日は朝8時に集合して神社へ出発しました。約9時間近く400kgある神輿をみんなで交替で担ぎ、20町会を回り歩きました。

当日を迎えるまで人集めやチラシ作りなど、いろいろな作業を8人で分担して行いました。そして、当日までに25名集めることができました。

また、事前に3回にわたって松本神社の歴史について学びました。学習会や打合せ会を通して深く松本神社を知ることができ、当日は気合いを入れて神輿を担ぐことができました。担いでいる時、みんなが力を合わせて助け合い、励まし合っている姿を見て、神輿のすごさを感じました。

松本神社青年部の方々をはじめ、関係者の方には本当にお世話になりました。ありがとうございました。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科3年 水澤 佑太さん)



## 地域の方の感想

- ・観客に届く大きな声がでていました。
- ・もう少し長く落語を聞きたかったです。
- ・自分の現在の様子も話してくれて、とても親しみが持てました。
- ・とても初めてとは思えないくらい落ち着いていて、仕草も落語らしく練習の成果がうかがえました。



## 新村福祉ひろば落語小話

落語研究会は学外での披露はあまりなく、今回お話をいただき、公民館で月1回行われている新村福祉ひろばの中で小話を発表させていただきました。

小話は2つ合わせて10分程度、まだまだ練習不足の点がありましたが、聞いてくださる皆さんに暖かく見守っていただき、緊張していましたが、とてもよい雰囲気の中で気持ちよく話すことができました。この成功は、福祉ひろばの方を始め、私が話す高座やお囃子を流すなどの準備を協力してくれた仲間のお陰です。この紙面をお借りしてお礼をします。Thanks (^\_^)

小話を話した後も好評で、「また何回か来てやって欲しい」というお話もいただき、嬉しいことです。もっと練習を重ね、福祉ひろばのようなイベントの中で「落語もあるみたいだよ」って何気なく溶け込んでいる松大落研にしていきたいと思えます。現在は4年生しかいない小さなサークルです。興味を沸いた方は04k032@matsu.ac.jpまでどうぞ。

(総合経営学部総合経営学科4年 大月 哲也さん)

第4弾



# まちの縁側づくり実践塾



講座

## 実践報告会および 今後の展望

まちの縁側づくり実践塾で生まれた、育った、いくつかの縁側づくり実践活動等の報告を通して今後の展望をさぐります。

日時：9月19日(水)  
18:30~21:30  
場所：松本大学512教室



まちづくり指南役：  
NPO法人まちの縁側育み隊  
代表理事 延藤安弘先生

## ファシリテーション入門講座

- 会議が変われば地域が変わる -

日時：9月20日(木) 8:30~12:30  
場所：松本大学512教室

\*内容 イケてる議長さん<楽しい会議(場のデザイン、つなぐ)の開き方>  
ファシリテーショングラフィック  
<発案、意見のまとめ方、整理の仕方>  
合意形成<みんなで分かち合う、共有する>  
\*参加費 500円(大学生以下無料)

定員は各回30名。それぞれに申込みが必要です。  
9月18日(火)までに考房『ゆめ』へメール、FAX等  
でお申し込みください。

# 「むかしからのうまいもん」完成!

18年度県内15地域を歩き、直接ふれて学んだ60種類に及ぶ郷土料理を学生の視点でまとめました。地産地消や食育が重要視されている今、昔からの食文化が見直されてきています。この本を多くの方々に手にとっていただき、失われつつある信州の食文化に関心を寄せていただけたら幸いです。

### 内容

- ・信州の郷土食
- ・テーマ別信州の食文化
- ・凍み大根づくり (作業工程)
- ・行事食カレンダー
- ・伝統食をアレンジして今に伝える



実習を思い出しながら原稿を作っていると、昔から伝えられている食文化がいかに理にかなったものであるかということ、そしてそれを一生懸命後世に伝えようとしている方々がこんなに沢山いらっしゃるのだということに改めて驚き、感動しました。より多くの皆さんに手にとっていただき、気軽に郷土食に触れていただくことで、先人からの知恵の詰まった食文化が、決して絶えることなく伝えられていくことを願っています。

(平成18年度「地域と食文化」履修生 赤羽 明恵さん)



オールカラー

A4サイズ112ページ  
1,000円で販売中です



:\* \*.. つぶやき \*.. :\*

短大に入学してから、よりよい住環境の整備に取り組んでいるユニコスさんのお手伝いを始めました。ユニコスさんは松本市の工務店さんや職人さんから成り立っていて、今までに、松本市街地トイレ調査などを行い、消費生活展等の場で発表をされてきました。お手伝いをするなかで、「大企業は、利益にならないためトイレに手すりを1本取り付ける仕事はしない。しかし、自分達は手すり1本でも利用者の要望に沿って取り付けることができる。」というお話をユニコスさんからお聞きし、地域企業のすばらしさを学びました。

ボランティアを通じて、たくさんの方が、地域の良さを学べると思います。

(松商短期大学部2年 高山 春奈)

インフォメーションへの問い合わせ“ゆめ通信”へのご意見・質問など、すべて下記へお願い致します。



松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

Tel: 0263-48-7213(直通) 0263-48-7200(代表)

Fax: 0263-48-7216

E-mail: community@matsu.ac.jp

URL: [http://www.matsumoto-u.ac.jp/matsumoto\\_u/yume/](http://www.matsumoto-u.ac.jp/matsumoto_u/yume/)